

「そらをとびたかったペンギン」

川崎市立南百合丘小学校三年

たかはしかれん
高橋果怜

私は、「そらをとびたかったペンギン」を読んでゆかいなお話だなと思いました。

さいしよは悲しいお話だと思ったけど、さいごにうれしい気もちになりました。私も、鳥みたいにとびたいなと思ったけどこのお話を読むと、「自分にもいいところがある」という気もちになりました。モモはあきらめずに練習をしていたので私も、できないことに何でもチャレンジしたいです。みんなと、おなじになれてうれしいモモの気もちが、つたわってきて私もうれしい気もちになりました。

お友だちといっしょにできると楽しいから、モモも「自分がやだな」という気もちもなくなっただと思いました。私は、モモみたいに、ゆうきをもって話したりすることができるとなりたいです。大きな声でしゃべったり、みんなの前ではなすことがニガテで、できないけど私もこんどからモモみたいに、みんなのまえで大きな声でハキハキいいたいなと思えました。私もいっしょけんめい話してくれとうれしくなります。相手も自分もうれしくなるのでいっしょけんめいチャレンジして友だちにみせて相手も自分もうれしくなるのでたくさんつかいます。

このお話は、すごくゆかいでうれしくてたのしくなるお話だと思います。この本を、ねる前、毎日読みたいです。